

2025年10月発行

発行 函館市観光部観光推進課 TEL:0138-21-3453



地域から学び、未来へつなぐ

はこだて

教育旅行ガイド

歴史・産業・自然 × 探究

旅は学びのはじまり

学びのフィールド 函館

函館市は1859年、日本国内初の国際貿易港として開港。
海外交流を通して多種多様な文化や伝統を生み出しながら、

時代の最先端を切り開いてきました。

このまちには豊かな学びがあふれています。

歴史の息づく地で異文化交流の原点を知る。

新鮮な海の恵みと豊かな大地の実りから、

命と食のつながりを知る。

最先端の研究・技術施設で、未来の自分を思い描く。

函館でしかできない体験が、「今」の学びと思い出に、

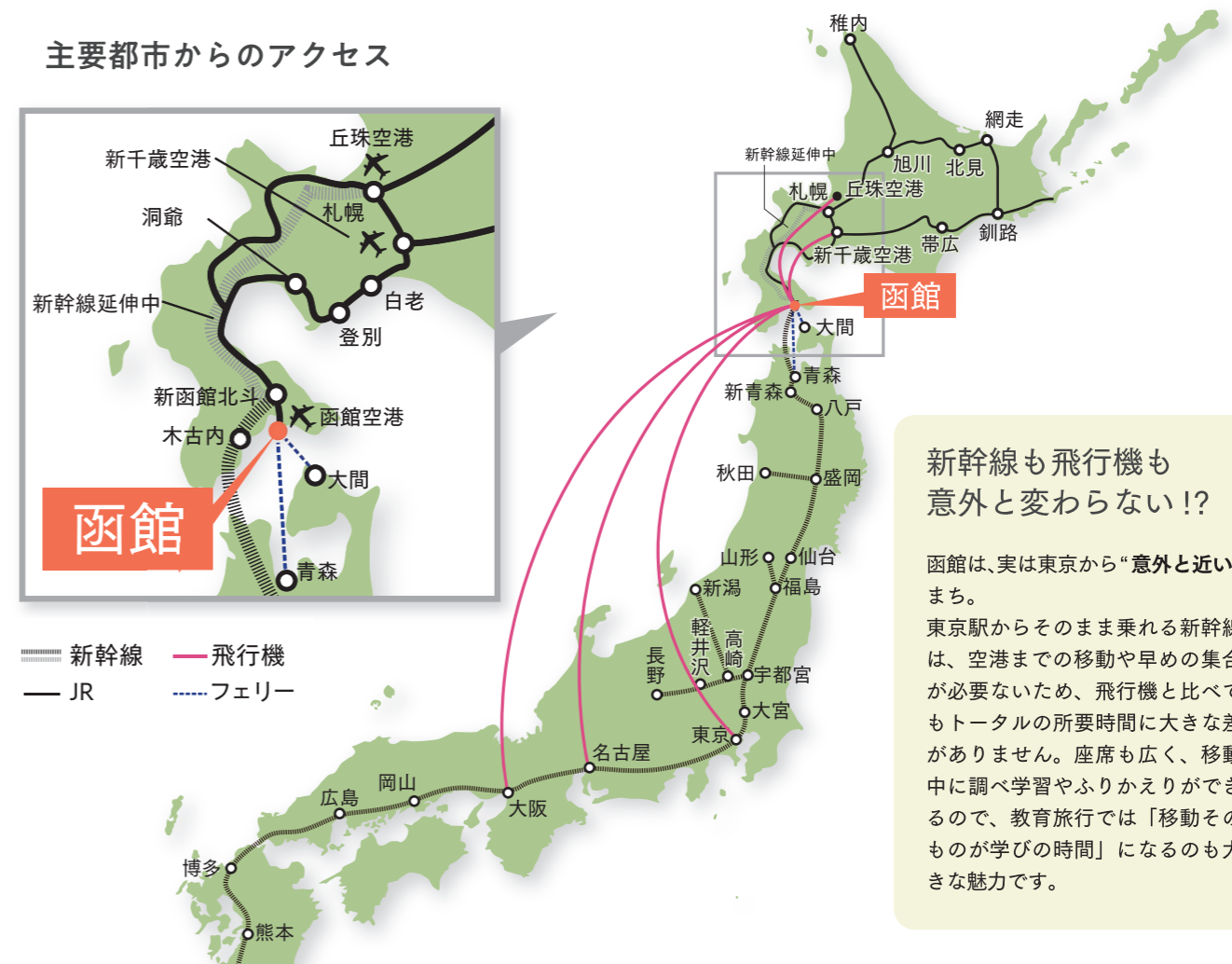
そして「未来」への一歩になるでしょう。

このガイドブックは、函館を「学びのフィールド」として楽しむためのパートナーです。
気になるページを開けば、歴史や自然、まちの人々の思いなど、探究のヒントが見つかります。
旅に出る前はテーマ選びに、現地では発見のメモに、帰ってからは振り返りに。
自由にページを歩き来しながら、自分だけの“学びの物語”をつくってください。

目次

- p3 主要都市から函館までのアクセス
- p4-5 はじめまして はこだてです
- p6-7 はこだて探究旅 学びのテーマ
- p8-9 01 History 世界文化遺産～自然と共に生きた縄文の知恵を体験する～
- p10-11 02 History 開港がもたらした変化と、箱館戦争を経て築いたまち
- p12-13 03 Industry 自然と育む函館の一次産業
- p14-15 04 Industry 海と技術が支えるものづくり
- p16-17 05 Nature 海・山・森がつながる函館
- p18-19 06 Future 函館のミライをつなぐ
- p20-25 タビまえ・タビなか・タビあと ワークシート
- p26-27 教育旅行受け入れ施設
- p28-31 全体マップ、エリアマップ

主要都市からのアクセス



新幹線も飛行機も意外と変わらない!?

函館は、実は東京から“意外と近い”まち。
東京駅からそのまま乗れる新幹線は、空港までの移動や早めの集合が必要ないため、飛行機と比べてもトータルの所要時間に大きな差がありません。座席も広く、移動中に調べ学習やふりかえりができるので、教育旅行では「移動そのものが学びの時間」になるのも大きな魅力です。

函館までのアクセス

出発地	所要時間	ルート	備考
東京	約4時間30分	東北新幹線 + 北海道新幹線	はこだてライナー 快速・最速15分 普通・最速19分 1日16往復 JR北海道 電話案内センター ☎ 011-222-7111
大宮	約4時間	東北新幹線 + 北海道新幹線	
仙台	約3時間	東北新幹線 + 北海道新幹線	
秋田	約5時間	秋田新幹線 + 東北新幹線 + 北海道新幹線	
青森	約1時間30分	奥羽本線 + 北海道新幹線	新函館北斗駅 函館駅
札幌	約3時間30分	特急北斗	
函館	約1時間30分	新函館北斗駅	
東京	約1時間20分	飛行機	函館
大阪(伊丹)	約1時間40分	飛行機	
名古屋(中部)	約1時間30分	飛行機	
札幌(新千歳・丘珠)	約40分	飛行機	
青森	約3時間40分	フェリー	函館
大間	約1時間30分	フェリー	



はじめまして はこだてです

未来の旅人になるために

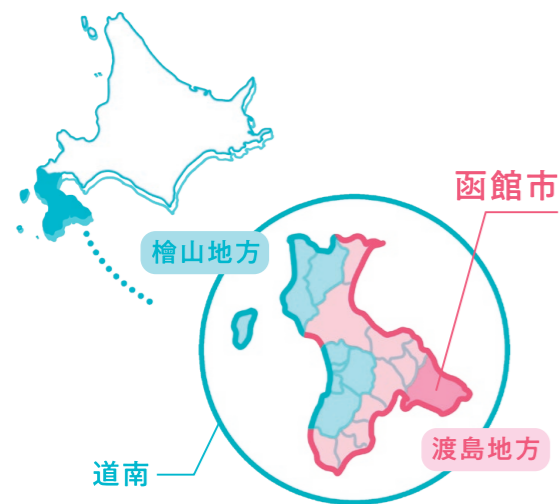
北海道はとても広く、地元では函館周辺の地域を「道南（どうなん）」と呼びます。
ここでは、まず「道南」のことを知り、自分のまちとくらべながら、新しい発見をしてみましょう。
道南は、歴史が学べ、水産業の現場もあり、縄文時代の暮らしにも触れられる、学びの宝庫です。
旅に出る前に知っておくことで、現地での体験がぐんと深まり、教育旅行がもっとわくわくするものになります。

大きさはどのくらい？

自分が住んでいる市町村 m²

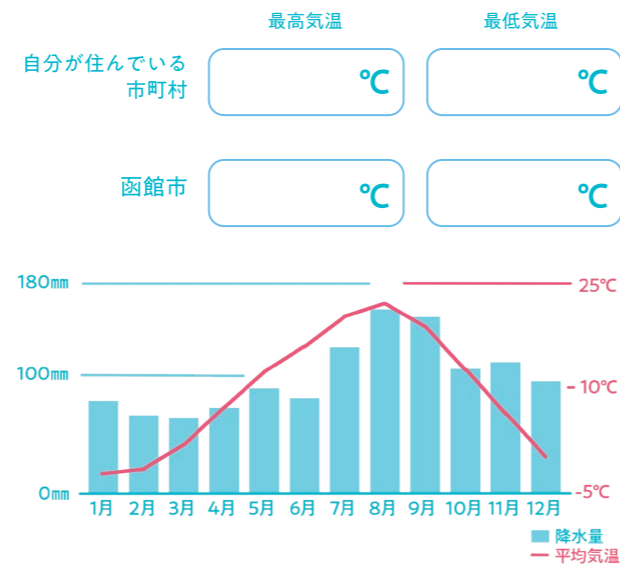
函館市 m²

函館市は、三方を海に囲まれており、市の南西部にそびえる高さ 334 m の函館山のふもとから扇状に市街地が広がっています。市街地は津軽海峡に面した細長い半島部分に集中しており、山と海に囲まれた独特の地形が特徴です。函館山から見える夜景はとても美しく、ミシュラン・グリーンガイド・ジャポンに三つ星掲載されています。また、北部には農地や山林も広がっていて、自然と都市が近いまちであることも函館の魅力です。



北海道はとても広いので、地域ごとに「〇〇振興局（旧・支庁）」という単位で分かれています。函館のある**渡島（おしま）**や、近くの**檜山（ひやま）**もそのひとつで、この2つをあわせて「道南（どうなん）」と呼びます。

気候は？



函館市は海の影響を強く受ける「海洋性気候」で、北海道の中でも寒さが比較のおだやかです。4月になっても肌寒い日はありますが、4月中旬頃に桜が咲き始めます。夏は湿気が少ないことが特徴で、9月頃からは朝晩が肌寒くなります。例年10月下旬から11月上旬にかけて紅葉の見ごろを迎え、紅葉の見ごろが終わると、初雪が観測されますが、北海道の中では降雪の少ない地域です。

春

朝晩冷えこむので重ね着が安心。
・薄手のコート
・風を防ぐ上着

夏

昼は涼しい。夜は肌寒い日も。
・半袖
・薄手の上着

秋

気温差が大きく一気に冷える。
・長袖に軽めの上着
・重ね着で調整

冬

寒さが厳しく防寒は必須。建物内と温度差が大きいため重ね着を用意。
・コートや手袋
・滑りにくい靴

季節ごとの見どころは？

春

春の五稜郭公園は約1,500本の桜が星形の堀を彩り、全国屈指の桜の名所として知られています。公園内の散策とタワーからの眺望が特別におすすめです。

五稜郭公園（桜）

夏

夏の函館山からは、多種多様な植物や動物が共に暮らす、豊かな自然を感じることができます。自然と人の営みのつながりを考えるきっかけになる風景です。

函館山

秋

秋の汐泊川では、色づく木々に囲まれながらカヌーを楽しみつつ、鮭が遡上する姿も見ることができます。自然の息づかいを間近に感じる特別な体験です。

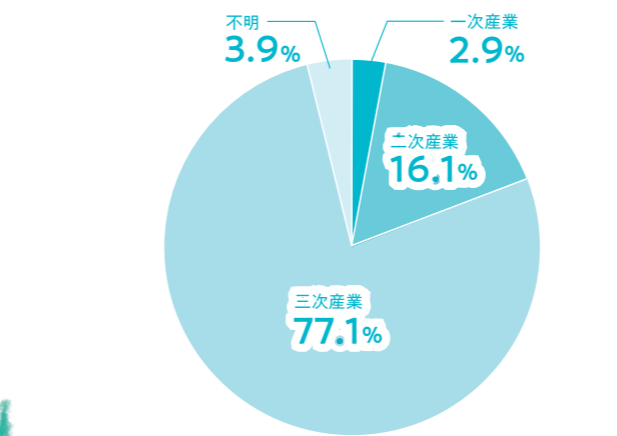
汐泊川カヌー

冬

冬の元町エリアは坂道や教会群が雪化粧し、異国情緒と静かな冬景色が調和します。ライトアップも美しく、散策にぴったりの季節です。

元町エリア

主要産業は？



一次産業は漁業や農業、二次産業は水産加工業や製造業、三次産業は飲食業や宿泊業が含まれます。

データ出所：国勢調査（総務省）
2020年の函館市の産業分類（大分類、3次分類）別の就業者数比率（就業者計109,183人）



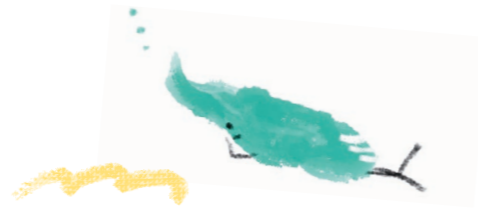
写真提供：おいしい函館

豊富な水産資源と歴史に彩られたまち「函館」の産業についてイメージを深め、現地を訪問する前に気になるキーワードを集めてみよう。

函館近海はちょうど暖流と寒流のぶつかる格好の漁場であることや日本で初めて貿易港が開港されたことから、漁業が盛んです。水揚げされた海産物を干物や珍味などに加工する水産加工業では魅力ある商品が多数生みだされ、道内はもちろん、東京や大阪など全国各地に出荷され、一部は海外にも出荷されています。他にも、東北以北では唯一の大型ドックを有する造船所である「函館どつく」での造船が盛んで、明治29年の創業以来、函館の地域経済を支えています。また、函館は「歴史と文化を体感できるまち」として知られており、開港以来の異国情緒を感じさせる街並みや五稜郭などの歴史資源に加え、温泉や四季折々の自然などの観光資源が多くなつてきています。このため、観光客をおもてなしする宿泊業や飲食などのサービス業が発展しています。

はこだて探究旅 学びのテーマ

函館の魅力をもつ4つのテーマに分けて紹介します。
興味にあわせて学びながら、函館の新しい一面を見つけてみましょう。



History
縄文文化、函館開港、幕末。教科書で学んだ歴史が、ここでは風景として目の前に広がる

函館は、縄文のはじまりから、開港による国際交流、そして箱館戦争の舞台まで、日本の歴史を「時代の変化」という軸で学べる“生きた教科書”です。歴史を「暗記」から「体験」へ。学びを深めるフィールドがここにあります。



特別史跡五稜郭跡



Industry
海鮮、野菜、果物、スイーツ。どうして函館では、何を食べても美味しいの？産業を学べば答えがわかる！

豊かな海に支えられた漁業や水産加工などの産業は、函館の人々の知恵と工夫から生まれ、発展してきました。その技や想いにふれることで、「地域の食や産業をどう未来へつなげるか」を考える学びが広がります。



郷土料理：飯寿司（写真提供：おいしい函館）



Nature
四季折々の自然の恵みを感じながら、その時期ならではの体験を楽しもう

海と山に抱かれた函館の自然は、人々の暮らしと文化を育んできました。四季の恵みや生態系のつながりを知り、「自然とどう共生し、未来へ活かすか」を考えることが、持続可能なまちづくりの学びにつながります。



函館山



Future
歴史・産業・自然を、次の自分、新たなまちづくりへつなぐ。すぐその未来、そしてずっと先の未来へ

「公立はこだて未来大学」をはじめ、函館では地域とともに未来を創る“まちづくりの学び”が活発です。観光・環境・福祉など、リアルな課題をテーマに若者たちが挑戦し、まちに関わる体験を通して次世代の地域づくりを考えています。



公立はこだて未来大学



01
世界遺産～自然と共に生きた縄文の知恵を体験する～

世界遺産に登録された縄文遺跡群と縄文文化交流センターを巡り、自然の恵みを活かして暮らしてきた当時の様子や精神性にふれることができます。体験学習を通して先人達の知恵を未来にどう活かしていくか考えてみましょう。



02
開港がもたらした変化と箱館戦争を経て築いたまち

開港によって外国文化や技術が流入した函館は国際都市として発展しました。その後の箱館戦争は大きな転換点となり、復興を経て現在の街並みや産業の基盤が築かれ、函館の礎を築いてきました。



03
自然と育む函館の一次産業

函館の一次産業は、海と大地の恵みを活かした漁業と農業です。暖流と寒流が交わる豊かな海で獲れる多様な海産物、肥沃な土地で育つ農産物は、人々の暮らしを支えています。



04
海と技術が支える函館のものづくり

函館の二次産業は、水産物などを加工する食品製造業と船をつくる造船業が盛んで、港町として発展した歴史を活かし、豊かな海の恵みと高い技術力を組み合わせながら、地域のものづくりを支えています。



05
海・山・森がつながる函館

海・山・森がつながる函館では、人々は四季の恵みを活かし、漁業や農林業を育んできました。森が海を育て、海が暮らしを支える循環に触れることで、自然と産業のつながりを学ぶことができます。



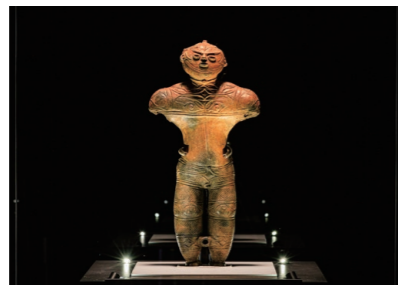
06
函館のミライをつなぐ

函館は歴史・産業・自然が密接に関わり合い、まちが発展してきました。学んだつながりを未来へ生かすのは、地域を新しい視点で見つめる若い世代です。過去を知り、今を感じ、これからの函館の姿を考えてみましょう。

01 世界文化遺産 ～自然と共に生きた縄文の知恵を体験する～

世界文化遺産に登録された、函館の縄文遺跡群と縄文文化交流センターを巡り、自然の恵みを活かして暮らしてきた当時の様子や精神性にふれることができます。体験学習を通して先人達の知恵を未来にどう活かしていくか考えてみましょう。

H-1 函館市縄文文化交流センター



写真提供：函館市教育委員会
北海道初の国宝「中空土偶」を常設展示しているほか、土器や石器などの道具類の展示から、漁労・狩猟・採取を基盤とした縄文人の暮らしと文化に触れられます。

探究ポイント
縄文の人々はどのように自然と共生して暮らしていたのだろうか？

体験
縄文文化にふれるものづくり体験

- 縄文文化交流センターでは、カックウの顔づくり、ミニチュア土器づくり、縄文ペンダントづくりなどが体験できます。

今と昔、時代は違っても自然と共に生きる知恵はつながっています。森や海と共生した縄文の祈りと感謝の精神は次の時代へ受け継がれました。大船遺跡の道具や祭祀は、人と自然、そして見えない存在への敬意を語り、持続可能な未来へのヒントを示します。

H-2 史跡 垣ノ島遺跡



写真提供：JOMON ARCHIVES

垣ノ島遺跡は、海を望むことができる縄文時代の集落跡で、発掘のようすや住居の形から、海とともに暮らした縄文人の生活を学べる遺跡です。

学芸員・遺跡ガイドによる説明

- 発掘のようすや竪穴建物跡の特徴、海と森に支えられた生活の知恵など、教科書だけではわからない“リアルな縄文”を体感でき、縄文時代の暮らしを深く学ぶことができるのが魅力です。地域の視点も交えた案内により、遺跡の価値を立体的に理解できます。

H-3 史跡 大船遺跡



復元された建物跡や盛り土遺構が整備され、縄文人がどのように暮らしていたのかを立体的に学ぶことができます。

探究ポイント
海のそばにあった集落では、縄文人はどんな方法で暮らしを支えていたのだろうか？

探究ポイント
大きな住居が並ぶ縄文の集落では、どんな人たちがどのように生活していたのだろうか？

Point
事前学習のポイント

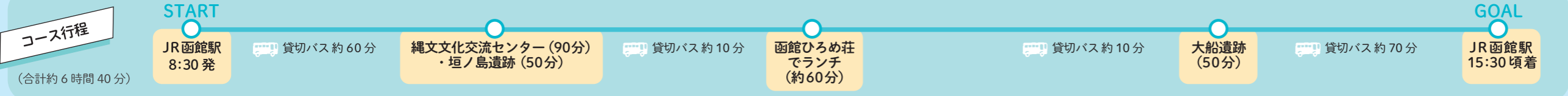
縄文時代の人々の生活から、気になるキーワードを集めておきましょう。

Point
現地学習のポイント

現地で、自然と人の関わりを感じながら、時代ごとの変化を観察してみましょう。見たもの・感じたことを、その場でメモに残しましょう。

Point
事後学習のポイント

学んだことをふりかえり、現代の私たちがどのように未来へ活かしていけるかを考えてみましょう。旅マエのキーワードと旅ナカのメモをもとに、函館の縄文文化と自分の地域の歴史や自然を比べてみましょう。



02 開港がもたらした変化と、箱館戦争を経て築いたまち

開港によって外国文化や技術が流入した函館は国際都市として発展しました。その後の箱館戦争は大きな転換点となり、復興を経て現在の街並みや産業の基盤が築かれ、函館の礎を築いてきました。

H-9 特別史跡五稜郭跡・箱館奉行所



探究ポイント
箱館戦争で五稜郭が果たした役割と意味はどのようなものだろうか？

箱館戦争の中心舞台。土塁・堀・石垣などが当時の雰囲気のまま体感できます。隣接する五稜郭タワーから、国内では珍しい星形の五角形をした城塞の姿を一望できます。中心部には「箱館奉行所」が復元されています。



五稜郭は、江戸幕府が西洋の知識を取り入れて築いた星形の城郭、箱館戦争の最後の戦いの舞台にもなった場所です。五稜郭タワーから、ぜひ自分の目で確かめてみてください。150年前の私たちの息づかいが、少しだけ感じられるかもしれません。時代は移り変わっても、大切なのは志(こころざし)です。この地で、あなた自身の「未来への一歩」を見つけてくれたら嬉しいです。



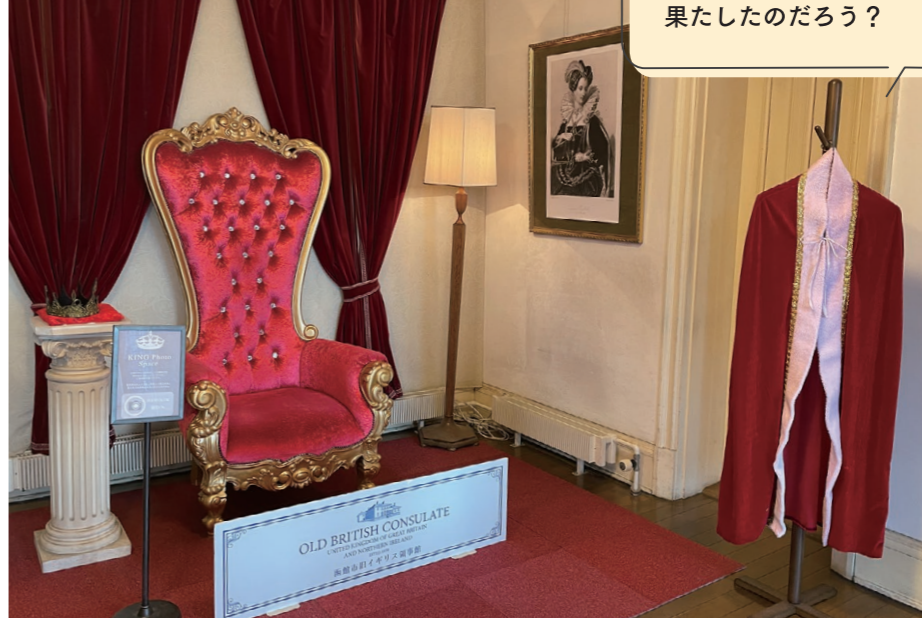
H-4 旧函館区公会堂



探究ポイント
異国の文化は、何がどのように日本に伝わり、取り入れられていったのだろうか？

1907年の函館大火で焼失した町会所に代わる施設として建てられたのが旧函館区公会堂です。明治時代の洋風建築として、国の重要文化財に指定されており、1911年には当時の皇太子殿下の宿泊所として使用されたこともあります。時代とともに軍の司令部や病院、演奏会・展示会の会場など様々な形で役割を変えてきた施設です。

H-5 函館市旧イギリス領事館



探究ポイント
外交と貿易の拠点として、函館はどのような役割を果たしたのだろうか？

1859年の開港により、函館では外国との貿易が始まり、港町として急速に発展しました。外国の技術や文化が流入したことで、造船業・水産加工業・商業など、近代化産業が生まれ、まちの発展の土台となりました。旧イギリス領事館や教会建築などを通して、異文化との交流が産業の成長やまちの景観形成にどのように寄与したのかを学ぶことができます。※時期によって装飾内容が変更になります

Point
事前学習のポイント

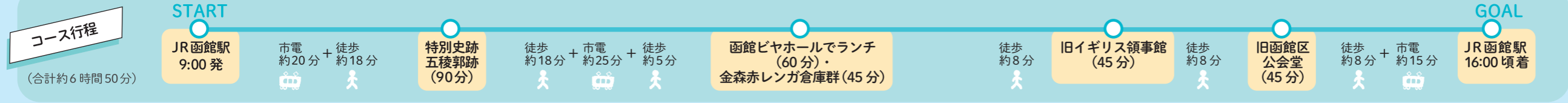
五稜郭や元町の歴史的背景など、気になるキーワードを集めておきましょう。また、港町がどのように変わったのか、自分なりの問いを準備しておきましょう

Point
現地学習のポイント

旧イギリス領事館や元町教会群、五稜郭公園を歩きながら、建物の特徴、まちの景観、当時の人々の思いなど、気づいたことをメモしましょう。「実際に見て、自分の視点」で記録することが大切です。

Point
事後学習のポイント

旅マエのキーワードと旅ナカのメモをもとに、函館の開港文化・戦争の歴史と自分の地域の歴史を比べ、違いや共通点を整理してみましょう。現地で自分が見つけた魅力を相手に伝えるためにまとめを作ってみましょう。



03 自然と育む函館の一次産業

函館の一次産業は、海と大地の恵みを活かした漁業と農業です。暖流と寒流が交わる豊かな海で獲れる多様な海産物、肥沃な土地で育つ農産物は、人々の暮らしを支えています。

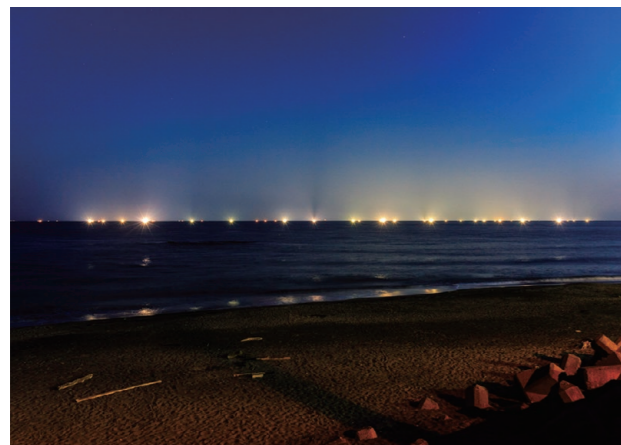
イカのまち 函館

函館はイカ漁と加工で栄えた「イカのまち」。活イカ文化も根つきましたが、近年は海の変化でイカの不漁が続いています。



探究ポイント

自分で釣ったイカを調理・試食することで、命と食のつながりを感じよう



写真提供：おいしい函館
イカ釣り漁船の灯す「いさり火」は光に集まるイカの習性を利用して、漁の効率を上げる仕組みで遠くからも見えるこの光景は函館の風物詩です。



I-1 第18金龍丸(イカ釣り体験)

ベテラン船長の指導で本格的なイカ釣りを体験できます。実際の漁を体験することで、海の恵みをいただく大変さや、昔ながらの漁の知恵を学べる貴重な機会となります。

ようこそ、函館の海へ。私はイカ釣り船の船長です。函館の海で、長年イカを釣り上げてきました。君たちとイカ釣りを共にするのを楽しみにしていました。ただし、この体験ではただ釣るだけでなく、海の恵みをいただくありがたさや、仲間と協力する大切さを学べるはず。今日は君たちも立派な海の仲間として、イカ釣りに挑戦してみてください。



漁業と暮らしのつながりを学ぶ

函館エリアの暮らしは、古くから漁業と深く結びつきながら発展してきました。江戸時代の北前船交易では海産物が重要な産品となり、明治にはイカ・サケ漁が本格化。豊かな海と港の歴史が、地域の暮らしと文化を形作ってきました。

探究ポイント

地元の漁師は、豊かな海の恵みをどのように生かし、地域の漁業を支えているのだろうか？



わかさぎ漁(七飯町)

漁場に向かい、わかさぎの網上げを体験。獲れたてのわかさぎを唐揚げにして味わいながら、海の恵みと漁師の仕事を学べます。

探究ポイント

あらかじめ「質問カード」を準備して、魚の種類を観察し、漁師さんに質問しよう



地引網(木古内町)

津軽海峡の浜辺で地引網に挑戦。力を合わせて網を引き上げ、漁の現場を体感。協力し合うチームビルディングにも最適な体験。豊かな海の恵みを肌で感じられます。

命を守るために土を耕す

函館エリアの農業は、開拓の歴史とともに広がりました。明治時代の開墾から始まり、七飯町のりんご栽培や酪農、近年のワインドウ栽培へと、多様な農業が発展。開拓者たちが育てた土地と技術が、今の農業を支えています。

探究ポイント

どんな工夫で「ここで買いたい」と思ってもらえるようにしているんだろう？



写真提供：おいしい函館

農業体験(北斗市)

北斗市で100年以上続く白石農園は、「神トマト」として人気を集めています。安心して食べられる品質へのこだわりや、持続可能な農業を実践する姿から、食の安全や環境との向き合い方について学ぶことができます。

探究ポイント

なぜ北海道でワインづくりが広がっているんだろう？



ワイン工場見学(七飯町)

1973年創業のはこだてわいんは、老舗のワイナリー。自社農園でのブドウ栽培や醸造の工程を学べる見学プログラムがあり、食育・地域産業の学習に最適。広い敷地にはショップも併設され、ワインを使ったソフトクリームもあります。

Point

事前学習のポイント

函館でどんな魚が獲れるのか、どんな作物が採れるのかを調べ、気候との関係性や「どんな仕事があるのか？」など、自分なりのキーワードや疑問を集めて準備しましょう。

Point

現地学習のポイント

漁港や畑、加工の現場を見学し、見たこと・聞いたこと・感じたことをその場でメモしましょう。働く人の工夫、自然条件との関係性や、食品として手元に届くまでの流れなど、「体験して気づいたこと」を中心に記録しましょう。

Point

事後学習のポイント

旅マエの疑問と旅ナカのメモをもとに、函館と自分の地域の一次産業の特徴を比べてみましょう。自然条件や育てるものの違いなどを整理し、「自分の地域の魅力は何か」を伝える文章としてまとめましょう。

コース行程

(合計約6時間55分)

START

JR函館駅
9:30発

貸切バス約15分

イカ釣り漁船
見学・体験
(120分)

貸切バス約40分

道の駅なないろ・
ななえでランチ
(60分)

貸切バス約10分

はこだてわいん
(60分)

貸切バス約10分

白石農園
(60分)

貸切バス約40分

GOAL

JR函館駅
16:30着



04 海と技術が支えるものづくり

函館の二次産業は、水産物などを加工する食料品製造業と船をつくる造船業が盛んで、港町として発展した歴史を活かし、豊かな海の恵みと高い技術力を組み合わせながら、地域のものづくりを支えています。

海の恵みをさらにおいしくする、プロの手しごと

水産加工業は、函館の漁業とともに発展した産業です。江戸時代の干物づくりから始まり、明治以降は外国の食品保存技術や機械化をいち早く取り入れて高度化。函館名物のイカや鮭の製品など、港町の歴史が生んだ“食の産業”として進化してきました。



探究ポイント 伝統の木樽仕込みを続けることで、函館の味と産業はどのように守られ、受け継がれているのだろうか？



探究ポイント 鮮度を保つための工夫として、機械と人の手作業を、どのように役割分担しているのだろうか？



小田島水産食品 工場直売店

1914年創業の老舗で、いか塩辛づくりの工程を見学。秋田杉の木樽で熟成させる職人の技と、海の恵みを生かす知恵を学び、できたてを試食できます。

写真提供：おいしい函館



マルナマ食品

1939年創業の「マルナマグループ」による加工品製造・販売店。丁寧で高品質な加工技術が特長です。見学対応を想定した工場で、水産加工品の「原料→加工→製品」という過程を見ることが出来ます。

ここマルナマ食品では、函館でとれた新鮮な海産物を新鮮うちにおいしく加工しています。マルナマの工場には見学専用の通路があり、実際の水産加工の過程や様子を安全に見学できます。お菓子や飲料の工場見学はよくありますが、水産加工の現場を間近に見られる場所は、全国でも珍しいです。また、私たちの工場は「HACCP（ハサップ）」という国際的な衛生管理の基準を満たした、安心・安全な施設でもあります。水産物を扱う人たちの工夫や技術、そして衛生管理の大切さを感じ取ってもらえれば、とてもうれしいです。



浜の母さん地元料理体験 道の駅しかべ間歇泉公園（鹿部町）

漁協の母さんたちと一緒に、地元で獲れた魚介類を使った家庭料理を作って味わう。季節の恵みを生かす工夫や、地域の食文化にふれられる“ここだけ”の体験です。



探究ポイント 地元の海の幸や家庭料理には、どんな知恵や工夫があり、地域の暮らしを支えているのだろうか？



東北以北唯一の大型ドックを有する造船所 函館どつく

函館の造船業は、開港とともに発展してきました。外国船の寄港が増えると修理や建造の技術が求められ、明治以降は欧米の造船技術をいち早く取り入れながら成長。港町としての役割が、造船業をまちの基幹産業へと育てました。



探究ポイント どうして函館に造船所が作られたのだろうか？当時の歴史とひもづけて考えてみましょう



Point

事前学習のポイント

函館で発展してきた造船業や水産加工業について調べ、「どんな技術が使われているのか？」「なぜ函館で発展したのか？」など、知りたいキーワードや疑問をまとめておきましょう。

Point

現地学習のポイント

造船所や加工場の見学を通して、使われている道具や技術、働いている人の言葉など、現場で感じたことをメモしましょう。ものづくりの工夫や、安全・品質を守るための取り組みに注目して記録してみましょう。

Point

事後学習のポイント

旅マエの疑問と旅ナカのメモをふり返り、函館と自分の地域のものづくりを比べてみましょう。環境の違いや、地域産業の役割などを整理し、「自分の地域の魅力は何か」を相手に伝える文章にまとめましょう。

コース行程

(合計約4時間45分)

START

JR函館駅

9:00 発

市電 約15分 + 徒歩 約5分

小田島水産食品 (60分)

徒歩 約5分

函館どつく (60分)

徒歩 約5分 + 市電 約10分 + 徒歩 約5分

函館ビヤホールでランチ (60分)
・金森赤レンガ倉庫群 (45分)

徒歩 約5分 + 市電 約10分

GOAL

JR函館駅

13:45 着

05 海・山・森がつながる函館

海・山・森がつながる函館では、人々は四季の恵みを活かし、漁業や農林業を育んできました。森が海を育て、海が暮らしを支える循環に触れることで、自然と産業のつながりを学ぶことができます。

自然がつなぐ命の循環

川をカヌーで下ると、山から海へ続く自然の流れがよくわかります。秋には紅葉が川面を彩り、鮭が海から生まれた川に戻ってくる姿に、自然と生命のつながりを実感できます。森の栄養を運ぶ川は、鮭をはじめとした海の生き物、そして水産加工や観光にもつながる「命の通り道」です。



探究ポイント
なぜ鮭は生まれた川へ戻ってくるのだろうか？

N-1 HAKODATE ADVENTURE TOUR

一年を通してカヌーを楽しめます。四季の景色や野鳥などの生き物に出会えるのも函館ならではの魅力です。



海と山と森が出会うこのまちには、季節ごとに表情を変える大自然があります。足もとに息づく植物や動物たち。ここには、自然と人が共に生きてきた証があります。秋には汐泊川でカヌーに乗り、紅葉を眺めながら下る旅へ。水中をのぞけば、命をつなぐように鮭が遡上する姿。森の栄養が海を育て、海がまた森を潤す、そのつながりを体いっぱい感じてください。函館の自然は、見るものではなく、感じ、学び、そして次へとつなげるものです。



N-2 海と森はつながっている

ミナミカヤベ リバイブ サロン

親潮と対馬暖流が交わる海は真昆布など豊かな海産物を育み、縄文人もその恵みを食べて暮らしていました。海と山の恵みが、1万年続いた縄文文化を支えてきたのです。しかし、近年は海水温の変化などで、天然真昆布が減ってきている地域もあります。自然とともに生きるとはどのようなことか、今あらためて考える必要があります。



ツリークライミングで森の命に触れ、昆布漁師から海の恵みを知る。森から海へ続く自然の循環を学ぶことができます。



探究ポイント
天然真昆布が減っているのはなぜ？ 森や海を環境をどう守り、未来へつなげられるだろうか？

雪の森で自然を感じる

冬の自然は、スキーや氷上わかさぎ釣りなどの観光を支え、地域の仕事を生み出してきました。しかし近年は地球温暖化による積雪の変化が影響し始めています。

探究ポイント
雪の上に残る動物のフィールドサインから、雪が減ることについて考えてみましょう



スノーシュー（七飯町）

七飯スノーパークのスノーシュー体験では、ふかふかの雪の上を歩き、冬の森の静けさや動物の足跡を観察しながら、雪に覆われた自然の様子を体感できます。

探究ポイント
氷と寒さがつくる“冬の恵み”は、どんなしくみで守られているのか？



わかさぎ釣り（七飯町）

わかさぎ釣りは、氷の上から魚を狙う冬ならではの体験で、自分で釣り上げたわかさぎをその場で唐揚げにして食べることもできます。

Point

事前学習のポイント

函館の自然の特徴を調べ、自然と生命がどうつながっているのか、季節による変化や生き物の暮らしなどのキーワードを集めておきましょう。自分が現地で確かめたい疑問も準備しましょう。

Point

現地学習のポイント

自然を観察するなかで見たこと・感じたことを体験メモとして残しましょう。植物や生き物、地形の特徴など、その場で気づいたことを具体的に記録しましょう。

Point

事後学習のポイント

旅マエのキーワードと旅ナカの体験メモを振り返り、函館と自分の地域の自然を比べてみましょう。地形や季節の違いを整理し、「自分の地域の自然の魅力」を伝える文章にまとめましょう。

コース行程

(合計約7時間20分)

START

JR函館駅 9:00発

貸切バス約15分

汐泊川カヌー体験 (120分)

貸切バス約15分

函館ビヤホールでランチ (60分)・金森赤レンガ倉庫群 (45分)

貸切バス約10分

函館山登山・自然観察・函館山展望台 (150分)

函館山 + 貸切バス約15分
ロープウェイ (下り乗車) 約10分

GOAL

JR函館駅 16:30着



06 函館のミライをつなぐ

函館は歴史・産業・自然が密接に関わり合い、まちが発展してきました。学んだつながりを未来へ生かすのは、地域を新しい視点で見つめる若い世代です。過去を知り、今を感じ、これからの函館の姿を考えてみましょう。

未来をつくる人を育てる

公立はこだて未来大学では、生命・自然・数理・社会・認知・人工物など、多様なシステムを対象に、情報科学を基盤とした研究を行っています。函館という魅力あるフィールドと分野横断的な学びが自然と生まれる開放的な教育環境から、「未来のあたりまえ」を発信しています。



探究
ポイント

大学のプロジェクトや大学生との交流を通して、自分の学びや進路の描き方を広げよう



F-1

公立はこだて未来大学

公立はこだて未来大学は、「未来をつくる人」を育てることをめざし、実践的な学びと探究を通して新しい価値を生み出す力を育む大学です。

広いガラスの校舎から見えるのは「海と山」。そして函館のまち。この自然とまちを舞台に、テクノロジーと人の知恵を生かして、よりよい未来を考える。そんな「挑戦の学び」を、みなさんにも肌で感じてもらうだけでなく、実際に体験し、ことばを交わし合える場が、はこだて未来大学です。さあ、一緒にみなさんのアイデアを、未来を、「かたち」にする学びの旅に出かけましょう。未来を変える最初の一步は、「なぜだろう？」という小さな好奇心からです！



キャンパスツアー

大学内を学生が案内します。みなさんの住む地域出身の大学生がガイドしてくれることも！



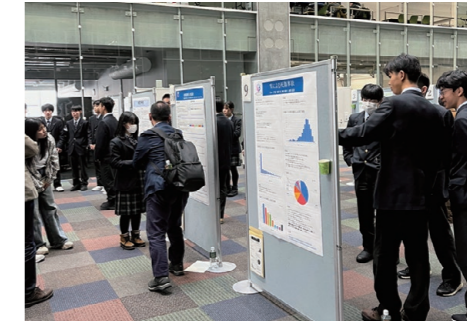
大学生による大学生活のプレゼンテーションと進路相談

リアルな大学生活だけでなく、学びや函館の暮らしについても、プレゼンテーションや対話交流で体感できます。



プログラミング体験

先生もしくは大学生の指導のもと、実際にパソコンをさわりながら、プログラミングを体験できます。



探究活動発表と教員からのコメント

みなさんが勉強した情報・科学分野の探究内容について、大学生や大学の先生たちからコメントをもらえます。

Point

事前学習の
ポイント

未来大の研究分野や地域課題を調べ、「どんな問題があり、どう解決できるのか？」という自分なりの問いを考えてみましょう。現地で確かめたい視点を整理しておくことが学びの準備になります。

Point

現地学習の
ポイント

大学のプロジェクトや学生の学び方を体験し、まちを観察しながら気づいたことを記録しましょう。研究の工夫や課題発見の方法など、現場だからこそ分かる視点をメモに残しましょう。

Point

事後学習の
ポイント

旅マエの問いと旅ナカの記録をふり返り、未来大で得たヒントを自分の地域へ置き換えて考えます。解決策のアイデアや地域の未来像をまとめ、相手に伝える形で発信してみましょう。

F-2



大学生とまちづくりトーク

ディスカバー サザン ホッカイドウ
Discover Southern Hokkaido

探究
ポイント

地域の若者は、まちの未来をどう考えているのだろう？自分は何ができるだろう



地元と語り合い、函館のまちづくりや地域課題への思いを聞く。同世代の視点から、まちと自分のつながり、未来をつくる一歩を考えます。



コース行程

(合計約7時間5分)

START

JR函館駅
8:50 発

貸切バス約40分

はこだて未来大学
講話 (120分)・
学食でランチ (60分)

貸切バス約20分

G スクエア (シエスタハコダテ 4F)
大学生とまちづくりトーク (90分)

貸切バス約20分

函館どつく
(60分)

貸切バス約15分

GOAL

JR函館駅
16:00 着



自分を知って、仲間とつながり、函館を探究しよう！



ワーク① ハッピーリスト

最近うれしかったこと・楽しかったことを3つ書いて、研修で一緒に行動するグループのみんなに共有し、グループにどんな人がいるか話し合ってみよう。

出来ごと	うれしかった理由

わたしが大切にしているのは



ワーク② わたしのトリセツ

自分を知ってもらうための“取扱説明書”を書いて、事前学習や研修中に、それぞれどんな役割をするか、グループで考えてみよう。



内容	記入欄
得意なこと	
苦手なこと	
がんばれるとき	
助けてもらいたいとき	

●自分の得意なことや苦手なことをグループで共有して、どんなことで活かしたり、フォローが必要か考えて、研修中の役割を考えてみよう。

役割の例：まとめる人（方向をきめる）、つなぐ人（みんなの声をひろう）、メモする人（気づきをのこす）、調べる人（質問したり情報を集める）、時間を見る人（スケジュール管理）、雰囲気をよくする人（チームを元気にする）など



ワーク③ テーマを決めよう

p6-7を見て、グループのテーマを決めよう。複数選ぶと学びがより一層深められるよ。

- 歴史 自然 産業 みらい

なぜこのテーマに決めたのか？

全体のねらい ▶▶▶

- 自分の関心や強みを知り、仲間とのつながりを深める。
- チームで探究テーマを決め、函館というまちを調べる中で問いを立てる。
- 現地での学びをより深くする準備を整える。

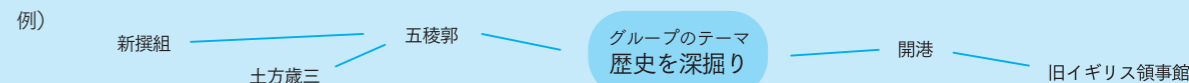


ワーク④ キーワードを考えてみよう

グループのテーマをもとにキーワードを書き出し、マインドマップでイメージを広げてみよう。

例) #開港 #五稜郭 #戊辰戦争 #新選組 #世界遺産(縄文) #函館山 #海と森 #温暖化 #漁業
#昆布 #水産業 #いか #SDGs #まちづくり など

書き出したキーワードを並べて、つながりのありそうなキーワード同士を線でむすんでみよう(※)



※マインドマップ(Mind Map)とは、中央にテーマを書き、関連するキーワードを放射状に広げてつなぐことで、頭の中の考えを“見える化”する思考整理法。



ワーク⑤ キーワードを深掘りしよう

気になるキーワードを深掘りして、現地で調べたいことを整理しよう。

例) 五稜郭

現地で調べたいこと

星の形は歩くと分かるのか？角のつくり方や堀の広さを実際に見て、星の形がどんな防御の工夫になっているのかを知りたい。

現地で調べたいこと

現地で調べたいこと

現地で調べたいこと


現地で調べたいこと

現地で調べたいこと




ワーク⑥ 計画をたててみよう

キーワードから研修の行き先をリストアップして、研修の計画をたててみよう。


 日目 時 分

行きたいところ

 理由



 日目 時 分

行きたいところ

 理由


▼ で、 分

▼ で、 分


 日目 時 分

行きたいところ

 理由


 日目 時 分

行きたいところ

 理由

▼ で、 分

▼ で、 分


 日目 時 分

行きたいところ

 理由


 日目 時 分

行きたいところ

 理由

▼ で、 分

▼ で、 分


 日目 時 分

行きたいところ

 理由


 日目 時 分

行きたいところ

 理由



訪問スポットで体験したことをメモしておこう

研修中に得られた情報や感想をメモして、自分の考えや疑問に思ったことを書いてみよう。

体験したことや見聞きしたこと

体験中に得た気づきや感想

また、旅行前の印象や考えていたこととちがったところ

地元の人から、話を聞いたりした中で、印象に残っていること



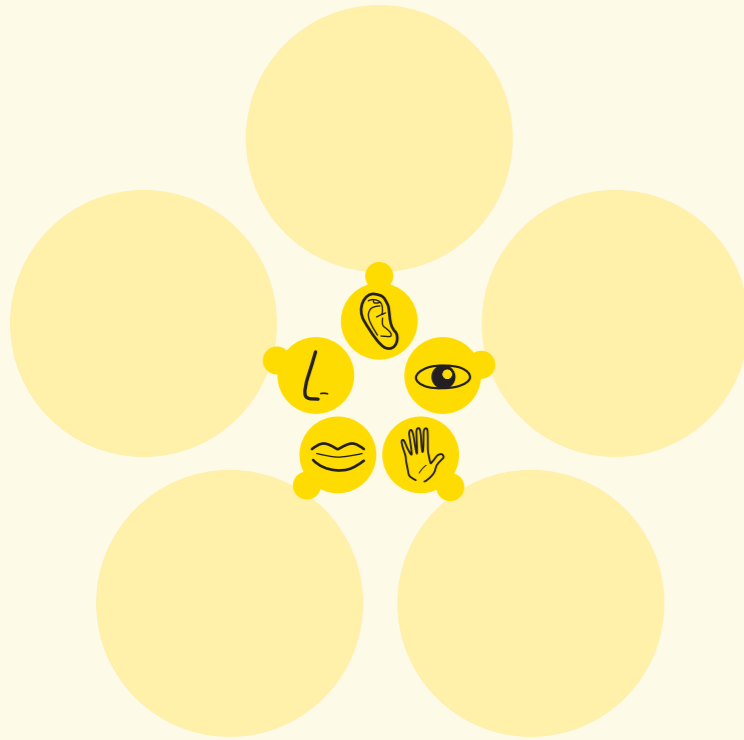
見つけた！考えた！伝えたい！～旅の学びを地域へ～

情報を見返し、問いの答えをグループで話し合います。わかりやすく伝えましょう。



ワーク① 自分の気づきを整理しよう

• 五感でふりかえり



• いちばん心に残ったこと

• 新しくわかったこと

• もっと知りたいこと



ワーク② 調べたことをまとめよう

見たり聞いたりしたこと、印象に残ったことを付箋に書いて出し合おう。似ているものをまとめて、タイトルをつけてみよう！



ワーク③ 自分たちの地域とくらべよう

自分のまちにも似ているところはあるかな？ 共通点や違いを見つけて、自分のまちとくらべてみよう。

函館で学んだこと	自分の地域では？	共通点・ちがひ・ヒント



ワーク④ もし自分が地域ガイドだったら？

自分が住む地域を、自分が「案内する立場」だったらどう伝える？ どんな場所を紹介したい？ どんなメッセージを伝えたい？

案内する場所・内容	どんなことを伝えたい？	なぜそれを選んだ？

発表しよう

自分たちが今からよりよい世界を作っていくために、《自分が個人でできること》と《自分の住む地域で、人と協力するとできること》の二つの視点で考え、プレゼン資料をつくって、それぞれ発表しましょう。

- ① **探究テーマのタイトル** 見る人の興味をひくタイトルを考える。
例)「なぜ函館には坂道が多いの？」など(問いの形でOK！)
- ② **このテーマを選んだ理由** なぜこのテーマを選んだのかを説明する。
自分たちの関心やこれまでの体験と結びつけてOK！
- ③ **現地でわかったこと** 現地で印象に残ったことを簡単に紹介。(3つ程度)
- ④ **わたしたちの気づき** ワーク③でまとめた内容を1枚程度に要約する。
共通点や変化、「なるほど！」と思ったところをまとめる。
- ⑤ **地元ではどうだろう？** 函館との共通点や違いを比較して、自分の地域とのつながりを考える。
- ⑥ **もし私がガイドだったら** 自分の地域で案内したい場所とその理由を説明する。
自分たちが「伝えたいメッセージ」で締めくくると効果的！
- ⑦ **学んで思ったこと** グループ全体の感想や今後の課題、次に調べたいと思ったことなどをまとめる。

修学旅行は思い出だけでなく、大きな学びの場です。どこへ行ったかよりも、何を体験し、何を感じ、どう変わったかが大切です。このワークブックは楽しさと学びを結びつける教材です。仲間と挑戦し、自分で問いを立て、答えを探る経験を自信につなげてください。そこで得た力は、これからの人生で必ず役立ちます。



教育旅行受け入れ施設

団体昼食会場

函館ピヤホール（金森赤レンガ倉庫）



明治期の金森倉庫。赤レンガとヒノキが醸す歴史空間で、落ち着いた雰囲気の中、本格料理を味わえる。

☝ 海鮮丼、弁当セット
☝ 未広町 14-12
☎ 0138-27-1010
受入可能人数 200名
バス駐車場 有

五島軒 本店



創業明治12年の老舗洋食店。国登録有形文化財の本店では売店や館内で歴史ある調度品や絵画も楽しめる。

☝ カレーライス
☝ 未広町 4-5
☎ 0138-23-1106
受入可能人数 200名
バス駐車場 無

ホテル函館ひろめ荘



山間の川のほとりに佇む秘湯の宿のレストラン。周辺には縄文遺跡群をお楽しみいただけます。

☝ 海鮮丼、カツカレー
☝ 大船町 832-2
☎ 0138-25-6111
受入可能人数 80名
バス駐車場 有

海鮮料理と釜めし あらき



海産物卸問屋直営。注文をうけてから炊き上げる釜飯・銀シャリがおすすめ。予算にあわせた各種定食も。

☝ 海鮮丼、定食、釜めし
☝ 若松町 9-22
☎ 0138-85-8357
受入可能人数 45～50名
バス駐車場 有
(朝市共用駐車場)

遊膳炙家 沙羅の月



函館山ロープウェイ山麓駅付近にある海鮮炭火焼の店。1階は漁師小屋をイメージ、2階からは夜景も。

☝ 海鮮セット
☝ 青柳町 9-23
☎ 0138-22-8022
受入可能人数 130名
バス駐車場 有
(大型バス要事前連絡)

函館朝市栄屋食堂



海鮮丼のほか、ホタテやタコを焼きながら食べる炉端、イカ釣り体験、売店でのショッピングも楽しめる。

☝ 海鮮丼、焼き魚
☝ 若松町 11-4
☎ 0138-23-3714
受入可能人数 120名
バス駐車場 有
(朝市共用駐車場)

貸切バス情報・大型観光バス駐車場情報

会社名	住所	TEL	保有バス台数
函館帝産バス・函館タクシー(株)	日乃出町 22-38	0138-55-1111	大型4台・中型1台
函館バス(株)	高盛町 10-1	0138-51-3135	大型3台
エイチ・ビー観光(株)	高盛町 10-1	0138-51-3136	大型8台・中型1台
網走バス(株) 函館営業所	高松町 130-107	0138-49-8864	大型20台・中型1台
(株) ケーエス北の星観光バス	西桔梗町 863-1	0138-86-5566	大型11台・中型5台・小型3台
北海道バス(株) 函館支店	上湯川町 337-2	0138-50-4000	大型12台・中型2台
H.C.S 観光(株)	西桔梗町 589-207	0138-49-8830	大型4台・中型1台
(有) ウインズトラベル	瀬戸川町 34-10	0138-83-6511	大型6台・中型1台・小型3台
(株) マルジュウ高田 厚沢部観光バス	滝沢町 11-8	0138-36-2922	大型7台・中型2台・小型1台
(有) 大沼交通	七飯町字大沼町 278-6	0138-67-3500	大型12台・中型1台

駐車場名	住所	管理者連絡先	収容バス台数
函館市元町観光バス駐車場	函館市弥生町 2	函館市観光部 TEL0138-21-3327	大型バス 14台
函館山麓観光バス駐車場	函館市元町 18	函館市観光部 TEL0138-21-3327	大型バス 15台
若松町観光バス乗降場	函館市若松町 12 番先	函館地区バス協会 TEL0138-54-4471	大型バス 22台
金森赤レンガ倉庫 観光バス駐車場	函館市豊川町 11-5	金森赤レンガ倉庫管理事務所 TEL0138-27-5530	大型バス 7台
五稜郭公園前 観光バス駐車場	函館市五稜郭町 29	五稜郭タワー株式会社 TEL0138-51-4785	大型バス 19台

タクシー情報

函館地区ハイヤー協会 TEL 0138-41-8111

宿泊施設 函館ホテル旅館協同組合 TEL0138-86-6871
お問い合わせ先 函館湯の川温泉旅館協同組合 TEL0138-57-8988

宿泊施設

☐ バ 客室バスタブ有無 ☐ ア 食物アレルギー対応可否
☐ 宴 宴会場有無 ☐ 団 団体昼食受入 全施設客室 Wi-Fi あり

施設名	住所・TEL	提供部屋タイプ	受入人数	バ	ア	宴	団
函館国際ホテル	大手町 5-10 0138-23-5151	ツイン(3名)、トリプル	280名	○	○	○	セット、バイキング
東横 INN 函館駅前朝市	大手町 22-7 0138-23-1045	ツイン、シングル	300名	○	×	×	-
ホテルリソル函館	若松町 6-3 0138-23-9269	ツイン(3名)、シングル	50名	○	○	○	-
ラ・ジェント・ステイ 函館駅前	若松町 12-8 0138-84-8861	ツイン、シングル	120名	○ 一部無し	×	×	-
プレミアムホテル -CABIN PRESIDENT- 函館	若松町 14-10 0138-22-0111	ツイン(3名)、シングル	100名	○	×	○	ブッフェ、弁当、セット
フォーポイントフレックス by シェラトン 函館駅前	若松町 18-19 0138-24-3811	ダブル、シングル、セミダブル	388名	○	×	×	-
ホテルマイステイズ 函館駅前	若松町 20-11 0138-27-2700	ツイン(3名)ダブル	625名	○	×	×	-
ラビスタ函館ベイ	豊川町 12-6 0138-23-6111	ツイン(3名)シングル	200名	○ 一部無し	○	×	-
ホテル函館ロイヤルシーサイド	大森町 16-9 0138-26-8181	ツイン(3名)	150名	○	○	○	カレーなど
ホテルマイステイズ 函館五稜郭	本町 26-17 0138-30-2111	ツイン(3名)	60名	○	○	×	-
ホテル法華クラブ函館	本町 27-1 0138-52-3121	ツイン	110名	○	○	○	-
花びしホテル	湯川町 1-16-18 0138-57-0131	和室(7名)	350名	○	○	○	-
湯の浜ホテル	湯川町 1-2-30 0138-59-2231	和室(7名)	500名	○	○	○	-
平成館 しおさい亭	湯川町 1-2-37 0138-59-2335	和室(5名)	60名	○	○	○	-
平成館 海洋亭	湯川町 1-3-8 0138-59-2555	和室(4名)、ツイン	120名	○	○	○	-
純和風旅館 一乃松	湯川町 1-3-17 0138-57-0001	和室(5名)	100名	○	○	○	-
湯の川観光ホテル 祥苑	湯川町 2-4-20 0138-36-1000	和室(5名)、和洋室(6名)	350名	○	○	○	-
湯元 啄木亭	湯川町 1-18-15 0138-59-5355	和室(5名)、ツイン	300名	○	○	○	セット
KKR はこだて	湯川町 2-8-14 0138-57-8484	和室(4名)、ツイン、シングル	60名	○ ツインのみ	○ バイキングは不可	○	弁当、カレーなど
イマジン ホテル&リゾート函館	湯川町 3-1-17 0138-57-9161	和室(6名)	250名	×	○	○	-
笑 函館屋	湯川町 3-10-3 0138-36-2000	ツイン(3名)、和室(5名)	40名	○ 一部無し	○ 寿司対応	×	-

Overall view

全体マップ



道南いさりび鉄道
函館駅
 ↑↓
木古内駅
 所要時間:片道約1時間
 お問い合わせ
 (0138) 83-1977

観光名所をめぐる循環バス ※時期により路線・ダイヤが異なります。詳しくはお電話
 函館バス(株)函館駅前バス案内所 / TEL (0138) 22-8111 でお問い合わせください。

- ①系統 函館山登山バス** 4月下旬~11月上旬の毎日運行
 函館駅前④番のりば ⇨ 明治館前 ⇨ 函館山山頂 ※運行時期は登山道の交通規制状況により異なります。
- ⑤系統 五稜郭タワー・トラピスチヌシャトルバス**
 函館駅前④番のりば ⇨ 五稜郭タワー ⇨ トラピスチヌ前 ⇨ 函館空港
- ③系統 元町・ベイエリア周遊号**
 函館駅前④番のりば ⇨ ロープウェイ前 ⇨ 明治館前 ⇨ 函館駅前

函館市電で函館観光 函館市電 路線図はこちら
 函館市企業局交通部 / TEL (0138) 32-1730

- ②系統** 谷地頭 ⇨ 十字街 ⇨ 函館駅前 ⇨ 五稜郭公園前 ⇨ 湯の川
- ⑤系統** 函館どつく前 ⇨ 十字街 ⇨ 函館駅前 ⇨ 五稜郭公園前 ⇨ 湯の川
 ※教育旅行でご利用の際、便利な各種乗車券の事前申し込みや貸切が可能です(要相談)。TEL0138-52-1273

乗り放題お得なパス ※2025年12月料金改定

市電・函館バス共通 **スマホ乗車券**
 スマホ専用(紙券なし)。「DohNa!!」で購入。
 1日券 大人 1,600円 / 小児 800円
 2日券 大人 2,600円 / 小児 1,300円

市電1日乗車券
 紙券:市電車内・JR函館駅観光案内所・函館駅前バス案内所・ホテル・コンビニ等で販売。
 スマホ券:「DohNa!!」で購入。
 1日券 大人 800円 / 小児 400円

南茅部エリア

史跡大船遺跡 H-3
 ホテル函館ひろめ荘
 史跡垣ノ島遺跡 H-2

函館市縄文文化交流センター H-1

道の駅
 縄文ロマン 南かやべ
 函館駅から車で約60分

道の駅
 なとわ・えさん
 函館駅から車で約60分

- 📍 団体受け入れ施設
- 📍 学べるスポット
- JR
- 北海道新幹線
- 函館山ロープウェイ
- 高速道路
- 道南いさりび鉄道
- 函館市電

